

国内の畜産物の需給動向

牛肉

7年3月の牛肉生産量、わずかに減少

生産量

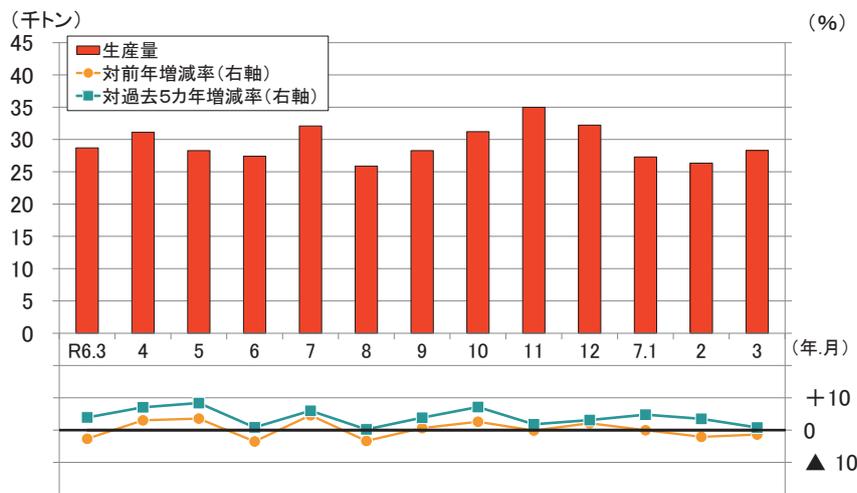
令和7年3月の牛肉生産量^(注1)は、2万8305トン（前年同月比1.4%減）と前年同月をわずかに下回った（図1）。品種別では、和牛は1万4526トン（同5.1%増）と前年同月をやや上回った一方、交雑種は7593

トン（同1.7%減）とわずかに、乳用種は6141トン（同10.5%減）とかなりの程度、いずれも前年同月を下回った。

なお、過去5カ年の3月の平均生産量との比較では、0.8%増とわずかに上回る結果となった。

（注1）生産量の合計は、その他の牛、子牛を含む。

図1 牛肉生産量の推移



資料：農林水産省「食肉流通統計」
注：部分肉ベース。

輸入量

3月の輸入量について、冷蔵品は、為替や現地価格の高止まりの影響などにより、主要輸入先を含むほとんどの輸入先からの輸入量が減少したことなどから、1万3332トン（前年同月比26.6%減）と前年同月を大幅に下回った（図2）。冷凍品は、為替相場や現地

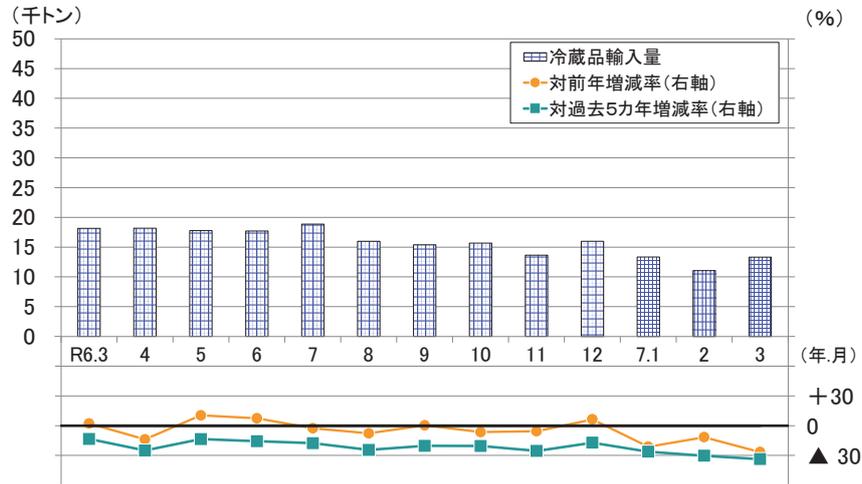
価格の高止まりの影響に加え、輸入品在庫量が比較的高水準であったことなどにより、主要輸入先を含むほとんどの輸入先からの輸入量が減少したことなどから、1万7597トン（同12.8%減）と前年同月をかなり大きく下回った（図3）。この結果、輸入量の合計^(注2)でも、3万955トン（同19.3%減）と前年同月を大幅に下回った。

なお、過去5カ年の3月の平均輸入量との比較でも、冷蔵品は33.7%減と大幅に、冷凍品は13.9%減とかなり大きく、いずれも

下回る結果となった。

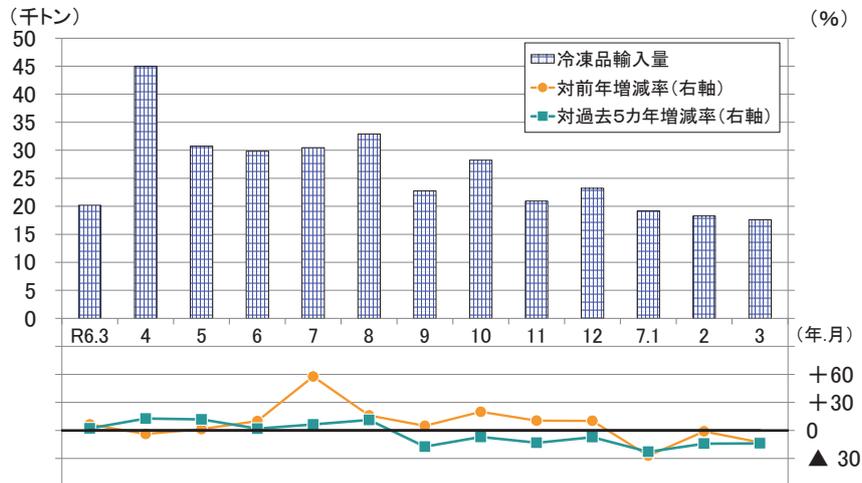
(注2) 輸入量の合計は、煮沸肉、ほほ肉、頭肉を含む。

図2 冷蔵牛肉輸入量の推移



資料：財務省「貿易統計」
注：部分肉ベース。

図3 冷凍牛肉輸入量の推移



資料：財務省「貿易統計」
注：部分肉ベース。

家計消費量等

3月の牛肉の家計消費量（全国1人当たり）^(注3)は148グラム（前年同月比8.7%減）と前年同月をかなりの程度下回った（総務省「家計調査」）。

なお、過去5カ年の3月の平均消費量との比較でも、17.4%減と大幅に下回る結果となった。

3月の外食産業全体の売上高は、月初の降雪などの影響を受けた業態もあったが、後半は歓送迎会や春休みの家族客の需要もあった

他、3月として過去最高となった訪日外客数などから、前年同月比7.0%増と前年同月をかなりの程度上回った（一般社団法人日本フードサービス協会「外食産業市場動向調査」）。このうち、食肉の取り扱いが多いとされる業態として、ハンバーガー店を含むファストフードの洋風は、定番の季節商品や期間限定の新商品、値引きキャンペーンなどが好調で、同6.3%増と前年同月をかなりの程度上回った。また、牛丼店を含むファストフードの和風は、客単価の上昇などにより、同10.8%増と前年同月をかなりの程度上回った。ファミリーレストランの焼き肉は、価格改定で客単価は前月より上昇したが、これまで若年層や家族客に支持されてきた食べ放題業態を中心に客足が伸び悩み、同0.7%増と前年同月をわずかに上回るにとどまった。

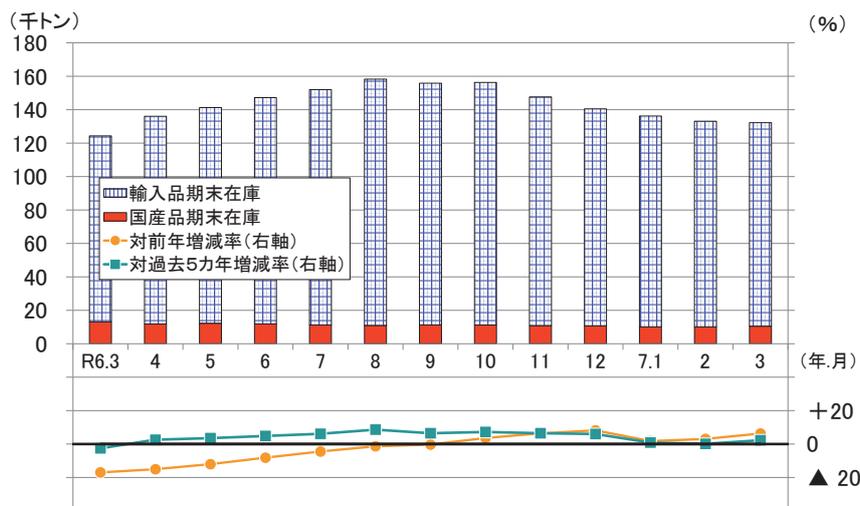
（注3）1世帯当たりの数値を当該月の世帯人数で除して算出。

推定期末在庫・推定出回り量

3月の推定期末在庫は、13万2208トン（前年同月比6.3%増）と前年同月をかなりの程度上回った（図4）。このうち、国産品は1万518トン（同19.8%減）と前年同月を大幅に下回った一方、在庫の大半を占める輸入品は12万1690トン（同9.4%増）と前年同月をかなりの程度上回った。

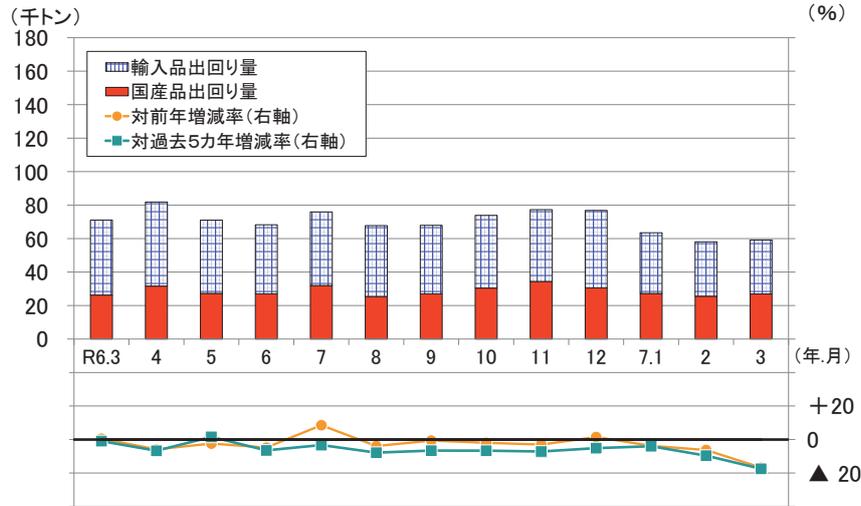
推定出回り量は、5万9162トン（同16.7%減）と前年同月を大幅に下回った（図5）。このうち、国産品は2万6937トン（同2.6%増）と前年同月をわずかに上回った一方、輸入品は3万2225トン（同28.1%減）と前年同月を大幅に下回った。

図4 牛肉期末在庫の推移



資料：農畜産業振興機構調べ

図5 牛肉出回り量の推移



資料：農畜産業振興機構調べ

(畜産振興部 丸吉 裕子)

豚 肉

7年3月の豚肉生産量、前年同月比1.7%減

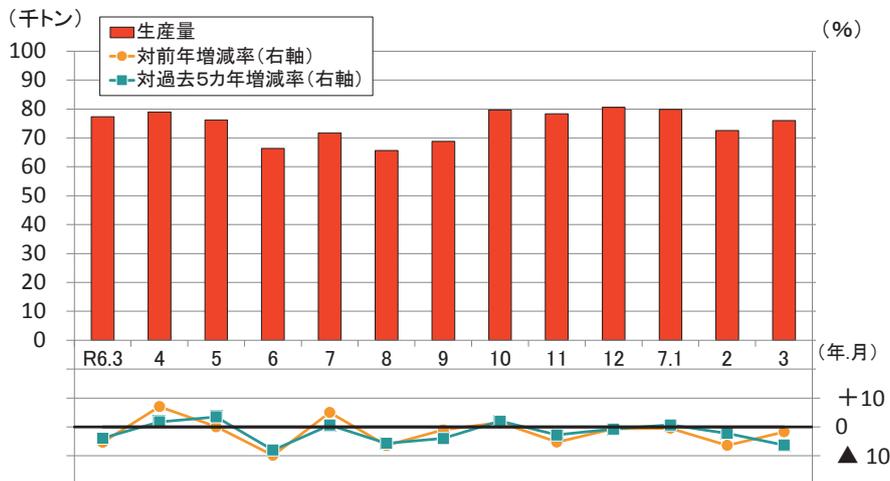
生産量

令和7年3月の豚肉生産量は、7万6052トン（前年同月比1.7%減）と前年同月を

わずかに下回った（図1）。

なお、過去5カ年の3月の平均生産量との比較でも、6.2%減とかなりの程度下回る結果となった。

図1 豚肉生産量の推移



資料：農林水産省「食肉流通統計」

注：部分肉ベース。

輸入量

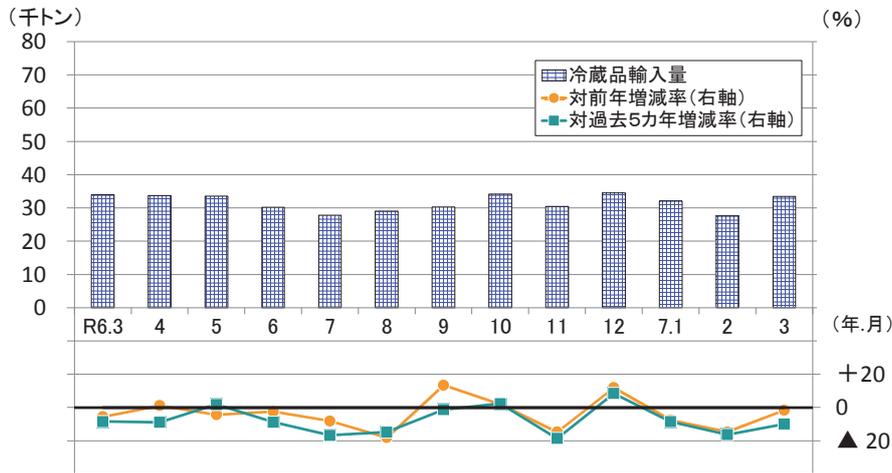
3月の輸入量について、冷蔵品は、現地相場高などの影響により米国産が減少したことなどから、3万3454トン（前年同月比1.6%減）と前年同月をわずかに下回った（図2）。冷凍品は、前年同月の輸入量が国内在庫のひっ迫の影響により多かったことなどから、3万2494トン（同19.4%減）と前年同月を大幅に下回った（図3）。この結果、

輸入量の合計^{（注1）}でも、6万5956トン（同11.3%減）と前年同月をかなり大きく下回った。

なお、過去5カ年の3月の平均輸入量との比較でも、冷蔵品は9.9%減とかなりの程度、冷凍品は2.2%減とわずかに、いずれも下回る結果となった。

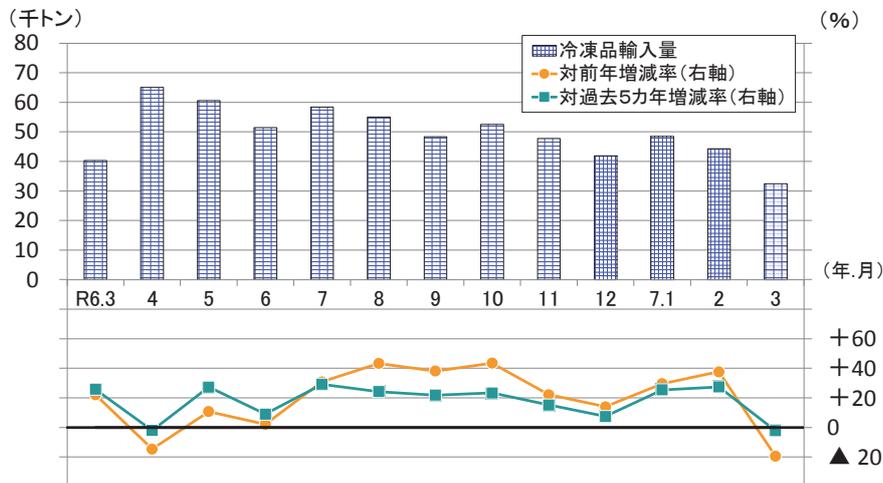
（注1）輸入量の合計は、くず肉を含む。

図2 冷蔵豚肉輸入量の推移



資料：財務省「貿易統計」
注：部分肉ベース。

図3 冷凍豚肉輸入量の推移



資料：財務省「貿易統計」
注：部分肉ベース。

家計消費量

3月の豚肉の家計消費量（全国1人当たり）^(注2)は、663グラム（前年同月比0.2%減）と前年同月並みとなった（総務省「家計調査」）。

なお、過去5カ年の3月の平均消費量との比較では、0.5%増とわずかに上回る結果となった。

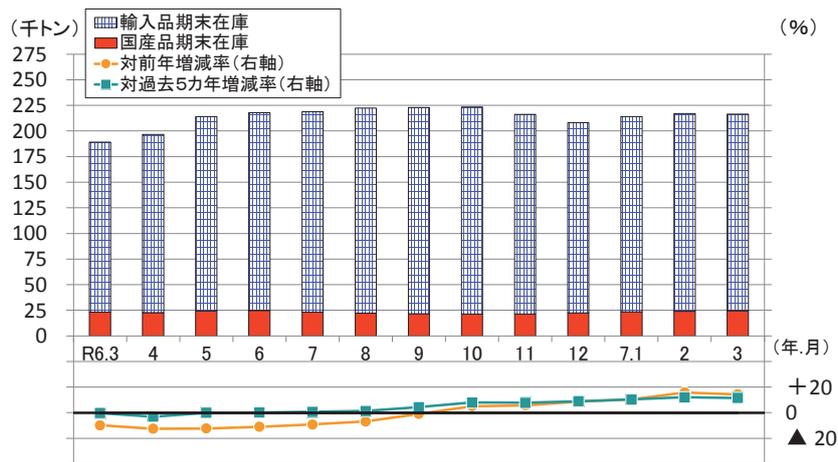
(注2) 1世帯当たりの数値を当該月の世帯人数で除して算出。

推定期末在庫・推定出回り量

3月の推定期末在庫は、21万6539トン（前年同月比14.4%増）と前年同月をかなり大きく上回った(図4)。このうち、輸入品は、19万2115トン（同15.6%増）と前年同月をかなり大きく上回った。

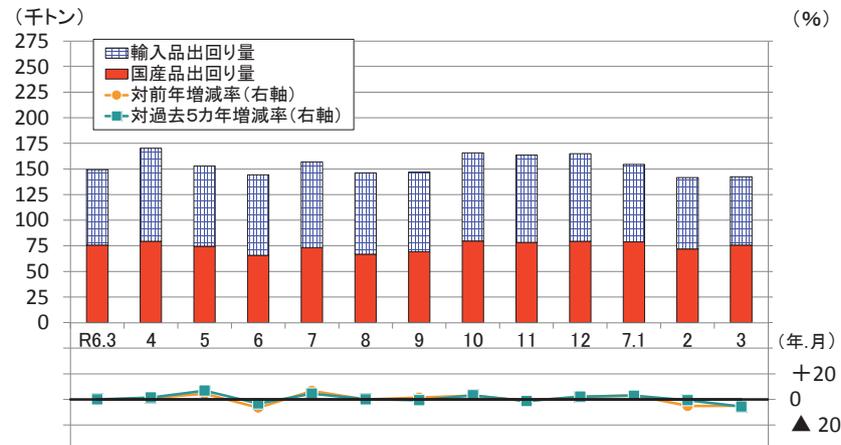
推定出回り量は、14万2266トン（同4.8%減）と前年同月をやや下回った（図5）。このうち、国産品は7万5606トン（同0.1%増）と前年同月並み、輸入品は6万6660トン（同9.8%減）と前年同月をかなりの程度下回った。

図4 豚肉期末在庫の推移



資料：農畜産業振興機構調べ

図5 豚肉出回り量の推移



資料：農畜産業振興機構調べ

(畜産振興部 小森 香穂)

鶏肉

7年3月の鶏肉生産量、前年同月比1.9%増

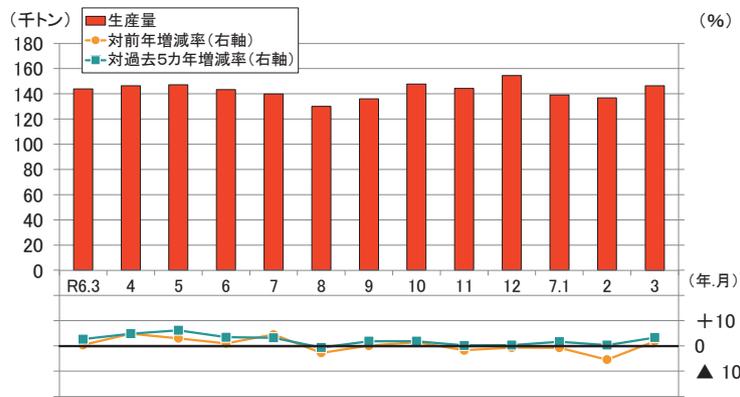
生産量

令和7年3月の鶏肉生産量は、14万6506トン（前年同月比1.9%増）と前年同月を

わずかに上回った（図1）。

なお、過去5カ年の3月の平均生産量との比較でも、3.3%増とやや上回る結果となった。

図1 鶏肉生産量の推移



資料：農畜産業振興機構調べ
注1：骨付き肉ベース。
注2：成鶏肉を含む。

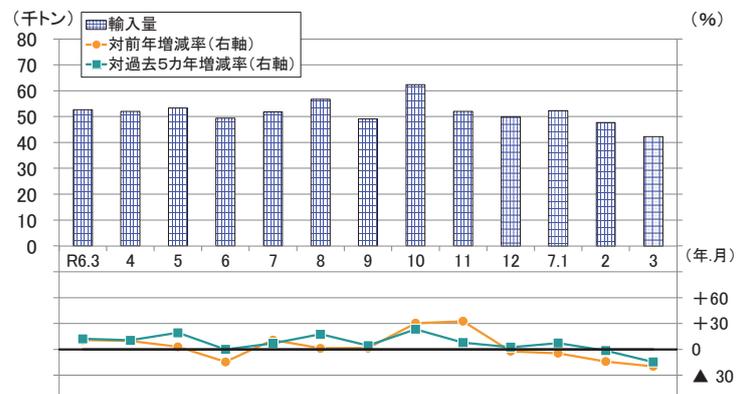
輸入量

3月の輸入量は、主要輸入国であるブラジルの国内および他国向け需要の高まりにより、現地価格が高止まりし、日本向け輸出の減少傾向が続いたことなどから、4万2303

トン（前年同月比19.7%減）と前年同月を大幅に下回った（図2）。

なお、過去5カ年の3月の平均輸入量との比較でも、14.6%減とかなり大きく下回る結果となった。

図2 鶏肉輸入量の推移



資料：財務省「貿易統計」
注：鶏肉以外の家きん肉を含まない。

家計消費量

3月の鶏肉の家計消費量（全国1人当たり）^(注)は、573グラム（前年同月比2.6%増）と前年同月をわずかに上回った（総務省「家計調査」）。

なお、過去5カ年の3月の平均消費量との比較でも、7.2%増とかなりの程度上回る結果となった。

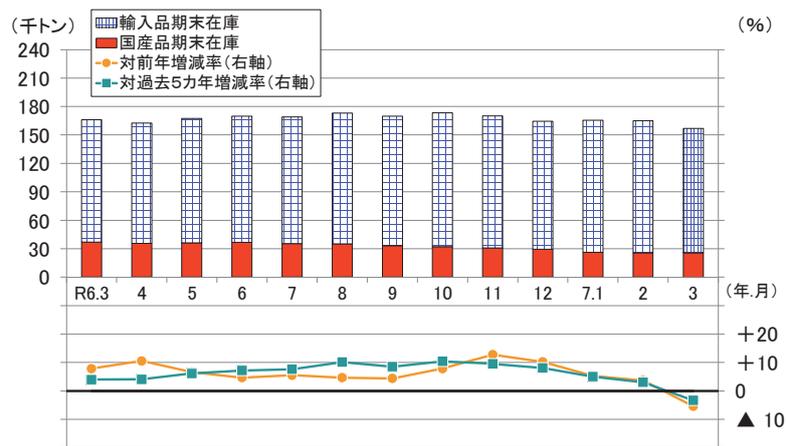
(注) 1世帯当たりの数値を当該月の世帯人数で除して算出。

推定期末在庫・推定出回り量

3月の推定期末在庫は、15万7013トン（前年同月比5.4%減）と前年同月をやや下回った（図3）。このうち、輸入品は13万1242トン（同1.7%増）と前年同月をわずかに上回った。

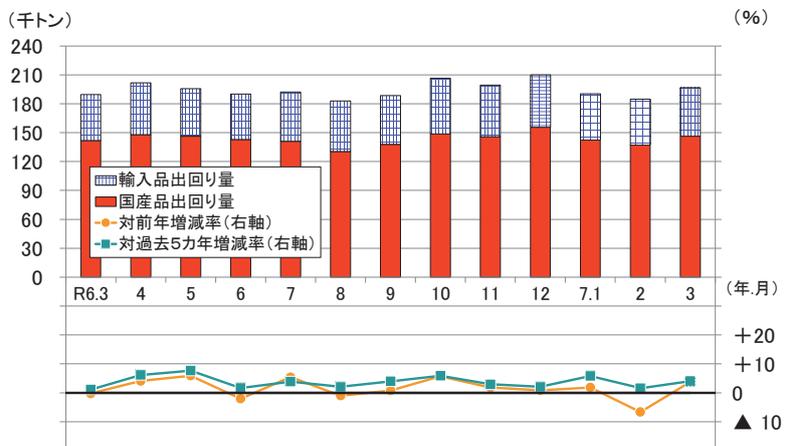
推定出回り量は、19万6730トン（同3.8%増）と前年同月をやや上回った（図4）。このうち、国産品は14万6455トン（同3.3%増）、輸入品は5万275トン（同5.4%増）と、いずれも前年同月をやや上回った。

図3 鶏肉期末在庫の推移



資料：農畜産業振興機構調べ

図4 鶏肉出回り量の推移



資料：農畜産業振興機構調べ

(畜産振興部 越川 紗弥)

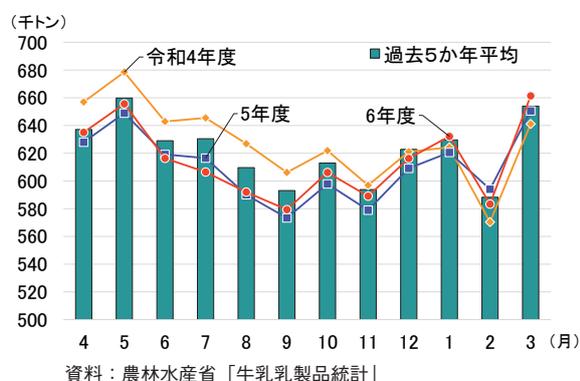
牛乳・乳製品

7年3月の全国の生乳生産量、2カ月ぶりに前年同月を上回る

北海道の生乳生産量、前年同月比4.5%増

令和7年3月の生乳生産量は、66万1411トン（前年同月比2.3%増）と、前年がうるう年であったために減少した2月を除き、前年8月から前年同月を上回る傾向が続いている（図1）。地域別に見ると、北海道は37万9164トン（同4.5%増）と8カ月連続で上回った。一方、都府県は28万2247トン（同0.4%減）と9カ月連続で下回った。

図1 生乳生産量の推移



3月の生乳処理量を見用途別に見ると、牛乳等向けは、31万360トン（同1.1%増）と2カ月ぶりに前年同月を上回った。このうち、業務用向けについては、2万5598トン（同1.1%増）と4カ月ぶりに上回った。

乳製品向けは、34万7491トン（同3.6%増）と2カ月ぶりに前年同月を上回った。これを品目別に見ると、クリーム向けは、6万1551トン（同0.1%減）と前年同月並みとなり、チーズ向けは4万696トン（同1.1%増）と

3カ月ぶりに上回った。脱脂粉乳・バター等向けは、19万5835トン（同4.6%増）と前年同月をやや上回り、8カ月連続での増加となった（農畜産業振興機構調べ「交付対象事業者別の販売生乳数量等」）。

全国の牛乳生産量、2カ月ぶりに前年同月を上回る

3月の牛乳等生産量を見ると、飲用牛乳等のうち牛乳は、24万6811キロリットル（前年同月比0.9%増）と2カ月ぶりに前年同月を上回った。一方、成分調整牛乳は、1万7111キロリットル（同5.6%減）となり前年同月を下回る状況が続いている。加工乳は、1万2418キロリットル（同5.1%減）と3カ月ぶりに下回った。また、はっ酵乳は8万8148キロリットル（同3.7%増）と9カ月連続で上回った。

3月のバター在庫量、前年同月比11.2%増

3月のバターの生産量は、8253トン（前年同月比6.2%増）と前年同月に比べかなりの程度増加し、2カ月ぶりに上回った（図2）。出回り量も、生乳生産の伸びに伴い、8114トン（同9.9%増）とかなりの程度増加し、3カ月ぶりに上回った（農畜産業振興機構調べ）。3月末の在庫量については、2万7159トン（同11.2%増）と、昨年9月以来連続して前年同月を上回った（図3）。

図2 バターの生産量の推移

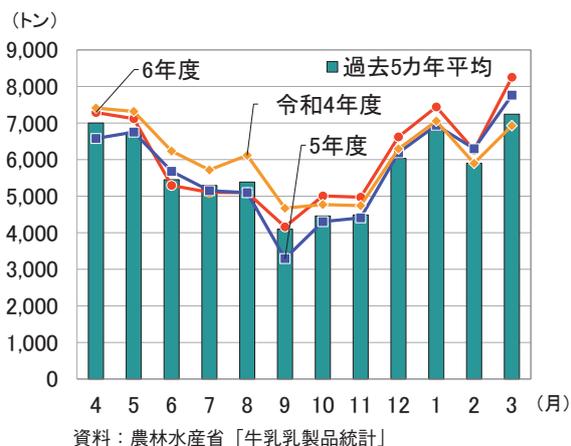


図4 脱脂粉乳の生産量の推移

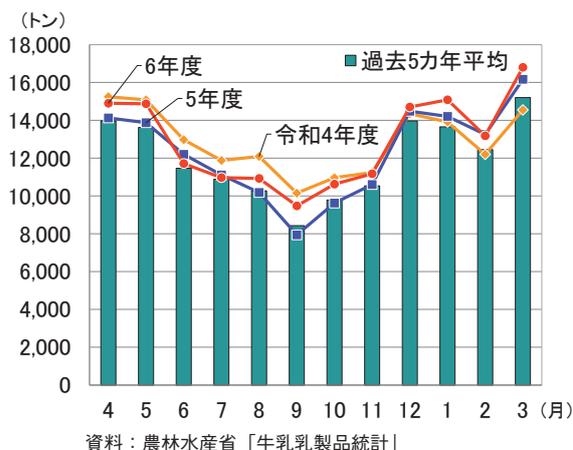


図3 バターの在庫量の推移

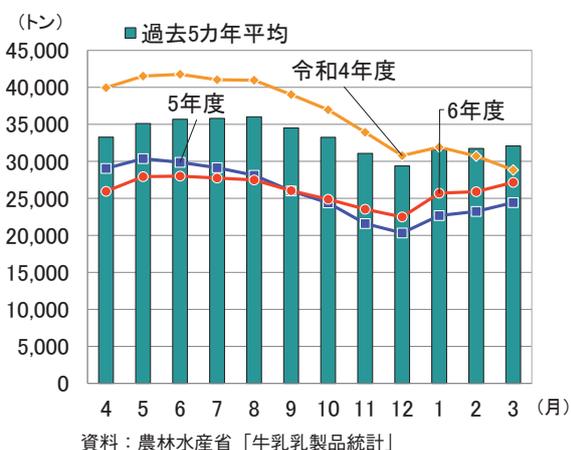
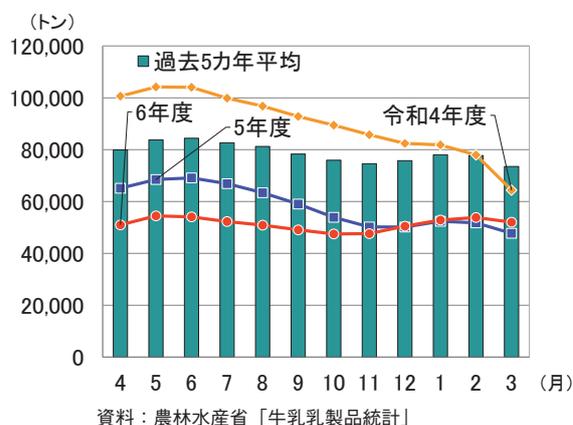


図5 脱脂粉乳の在庫量の推移



3月の脱脂粉乳生産量、前年同月比3.9%増

3月の脱脂粉乳の生産量は、1万6803トン（前年同月比3.9%増）と前年同月に比べやや増加し、バター同様、2カ月ぶりに上回った（図4）。一方、出回り量は1万8831トン（同7.1%減）とかなりの程度下回った（農畜産業振興機構調べ）。3月末の在庫量は、5万2027トン（同9.0%増）と、4カ月連続で前年同月を上回った（図5）。

令和6年度の生乳生産量、3年ぶりに増産

令和6年度の生乳生産量は737万3284トン（前年度比0.7%増）と前年度をわずかに上回り、3年ぶりの増産となった。地域別に見ると、北海道は426万4091トン（同2.1%増）と3年ぶりに上回った一方で、都府県は310万9193トン（同1.3%減）と3年連続で下回った（図6）。なお、全国の生乳生産量に占める北海道のシェアは57.8%、都府県は42.2%となり、シェアの差は拡大基調で推移している。

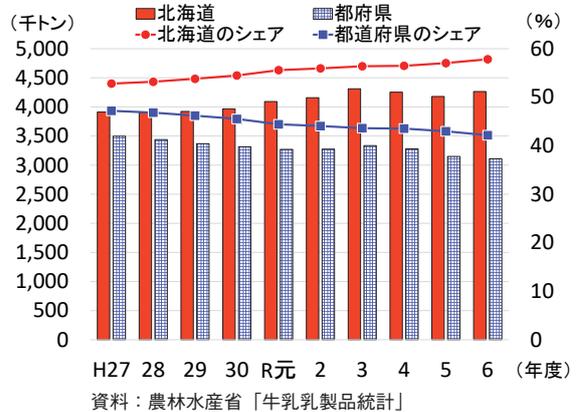
6年度の生乳処理量のうち牛乳等向けは、減少傾向は継続しながらも、382万743トン

(同0.5%減)とわずかな減少にとどまった。これは、5年度中の乳価改正に伴う製品価格の値上げなどによる消費減退の影響が一巡し、年度後半にはほぼ前年同月を上回って推移したことによるものと考えられる。一方、乳製品向けは350万7114トン(同2.0%増)と3年ぶりに上回った。

牛乳等の生産量については、飲用牛乳等のうち牛乳が307万1686キロリットル(同0.3%減)と前年度並みにとどまったものの、3年連続で減少した。成分調整牛乳は21万2936キロリットル(同8.5%減)と前年度をかなりの程度下回り、7年連続での減少と

なった。一方、加工乳は、14万7558キロリットル(同1.1%増)と前年度をわずかに上回り、4年連続での増加となった。

図6 地域別生乳生産量の推移



(酪農乳業部 田中 麻紀)

鶏卵

7年4月の鶏卵卸売価格、前年同月比52.5%高

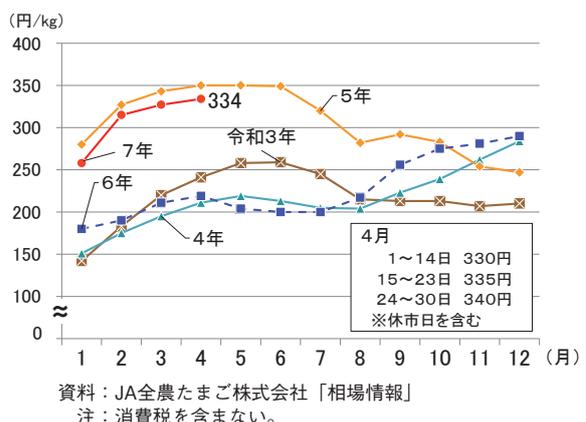
卸売価格

令和7年4月の鶏卵卸売価格(東京、M玉基準値)は、1キログラム当たり334円(前年同月差115円高、前年同月比52.5%高)と、前月から同7円上昇し、前年同月の同価格を大幅に上回った(図)。同価格の日ごとの推移を見ると、月初の同330円から15日には同335円、24日には同340円と計2回の上昇があり、月間の上昇幅は同10円となった。なお、過去5カ年の4月の平均卸売価格との比較でも、36.3%高と大幅に上回る結果となった。

供給面を見ると、2月以降高病原性鳥インフルエンザ(HPAI)の発生は落ち着いているものの、1月に相次いで発生したHPAIの

影響を受けて生産量が減少し、産地在庫は低位で推移した。一方、需要面を見ると、供給不足の影響から一部量販店において販売数量の制限の動きが見られた。業務筋や加工筋ではこのような中、引き合いが強まっている。

図 鶏卵卸売価格(東京、M玉)の推移



家計消費量

3月の鶏卵の家計消費量（全国1人当たり）^(注)は、932グラム（前年同月比0.4%増）と前年同月をわずかに上回った（総務省「家計調査」）。

なお、過去5カ年の3月の平均消費量との比較では、0.3%減と同水準という結果となった。

(注) 1世帯当たりの数値を当該月の世帯人数で除して算出。

(畜産振興部 越川 紗弥)

令和6年度の食肉の需給動向について

令和6年度(令和6年4月～令和7年3月)の食肉の畜種別の需給動向は以下の通り。

【牛肉】 生産量は、前年度をわずかに上回る

6年度の牛肉生産量は、35万3435トン（前年度比0.6%増）と前年度をわずかに上回った（表1）。品種別では、交雑種は9万3143トン（同2.0%減）とわずかに、乳用種は7万7895トン（同4.5%減）とやや、いずれも前年度を下回った一方、和牛は18万944トン（同5.8%増）と前年度をやや上回った。

輸入量は、前年度をわずかに上回る

6年度の牛肉輸入量は、50万6260トン（前年度比0.9%増）と5年ぶりに増加した。

主にテーブルミートとして消費される冷蔵品は、物価の上昇による消費者の生活防衛意識の高まりにより牛肉の国内需要が低迷する中、牛飼養頭数の減少などによる現地相場高などの影響により主に米国産が減少しており、18万6910トン（同6.3%減）と前年度をかなりの程度下回った。輸入先別に見ると、豪州産は9万1023トン（同2.1%減）とわずかに、米国産は7万9429トン（同12.8%減）とかなり大きく、いずれも前年度を下回った。

その結果、シェアは、豪州が全体の48.7%、米国が同42.5%を占めた。

他方、主に加工・業務用に仕向けられる冷凍品は、豪州産のうち主に加工用のひき材などに使用されるトリミングの輸入量が増加したことなどから、31万9102トン（同5.7%増）と前年度をやや上回った。輸入先別に見ると、豪州産は15万277トン（同17.5%増）と前年度を大幅に上回った一方、米国産は9万7133トン（同3.6%減）と前年度をやや下回った。その結果、シェアは、豪州が全体の47.1%、米国が同30.4%を占めた。

推定出回り量は、前年度をやや下回る

6年度の牛肉の推定出回り量は、物価の上昇による消費者の生活防衛意識の高まりもあり、84万1419トン（前年度比3.3%減）となり、5年連続で減少した。このうち、輸入品は、49万5799トン（同6.1%減）と前年度をかなりの程度下回った。一方、国産品は、34万5620トン（同1.0%増）と前年度をわずかに上回った。

年度末（7年3月）の推定期末在庫は、13万2208トン（同6.3%増）と前年度末をかなりの程度上回った。このうち、約9割を占める輸入品は12万1690トン（同9.4%増）と前年度末をかなりの程度上回った一方、

表1 牛肉需給表

年度	生産量						輸入量							
			うち和牛		うち交雑種		うち乳用種				うち冷蔵品		うち冷凍品	
	トン	前年度比 (増減率)	トン	前年度比 (増減率)	トン	前年度比 (増減率)	トン	前年度比 (増減率)	トン	前年度比 (増減率)	トン	前年度比 (増減率)	トン	前年度比 (増減率)
R 2	335,496	1.8%	160,591	5.7%	82,124	▲2.4%	87,520	▲1.6%	590,992	▲5.0%	258,136	▲7.2%	332,598	▲3.2%
3	335,942	0.1%	160,518	▲0.0%	83,616	1.8%	86,380	▲1.3%	569,107	▲3.7%	251,889	▲2.4%	316,918	▲4.7%
4	347,570	3.5%	164,978	2.8%	92,220	10.3%	85,149	▲1.4%	562,505	▲1.2%	214,535	▲14.8%	347,635	9.7%
5	351,397	1.1%	171,011	3.7%	95,025	3.0%	81,542	▲4.2%	501,898	▲10.8%	199,476	▲7.0%	301,988	▲13.1%
6	353,435	0.6%	180,944	5.8%	93,143	▲2.0%	77,895	▲4.5%	506,260	0.9%	186,910	▲6.3%	319,102	5.7%

年度	推定期末在庫						推定出回り量					
			うち輸入品		うち国産品				うち輸入品		うち国産品	
	トン	前年度比 (増減率)	トン	前年度比 (増減率)	トン	前年度比 (増減率)	トン	前年度比 (増減率)	トン	前年度比 (増減率)	トン	前年度比 (増減率)
R 2	117,475	▲7.4%	104,931	▲9.6%	12,544	17.1%	930,290	▲0.7%	602,189	▲1.8%	328,101	1.4%
3	127,825	8.8%	114,655	9.3%	13,170	5.0%	886,809	▲4.7%	559,383	▲7.1%	327,427	▲0.2%
4	149,724	17.1%	137,128	19.6%	12,596	▲4.4%	880,398	▲0.7%	540,032	▲3.5%	340,366	4.0%
5	124,337	▲17.0%	111,229	▲18.9%	13,108	4.1%	870,032	▲1.2%	527,797	▲2.3%	342,235	0.5%
6	132,208	6.3%	121,690	9.4%	10,518	▲19.8%	841,419	▲3.3%	495,799	▲6.1%	345,620	1.0%

資料：農林水産省「食肉流通統計」、財務省「貿易統計」、在庫量は農畜産業振興機構調べ

注1：部分肉ベース。

注2：輸入量のうち、冷蔵品および冷凍品はくず肉を含まない。

国産品は1万518トン（同19.8%減）と前年度末を大幅に下回った。

【豚肉】

生産量は、前年度をわずかに下回る

6年度の豚肉生産量は、89万4786トン（前年度比1.5%減）と前年度をわずかに下回った（表2）。

輸入量は、前年度をかなりの程度上回る

6年度の豚肉輸入量は98万3276トン（前年度比7.5%増）と前年度をかなりの程度上回り、過去最大の輸入量となった。

主にテーブルミートとして消費される冷蔵品は、現地相場高や為替の影響などにより米国産が減少したことなどから、37万6866トン（同4.0%減）と前年度をやや下回った。輸入先別に見ると、カナダ産は19万3156

トン（同6.6%増）と前年度をかなりの程度上回った一方、米国産は14万2922トン（同15.8%減）と前年度をかなり大きく下回った。その結果、シェアは、カナダが全体の51.3%、米国が同37.9%を占めた。

一方、主に加工・業務用に仕向けられる冷凍品は、価格優位性のあるブラジル産が増加したことなどから、60万6284トン（同16.2%増）と前年度を大幅に上回った。輸入先別に見ると、ブラジル産は9万1936トン（同136.3%増）、米国産は7万6829トン（同39.9%増）、カナダ産は5万315トン（同26.4%増）とともに大幅に、スペイン産は17万8324トン（同8.7%増）とかなりの程度、いずれも前年度を上回った。一方、メキシコ産は6万5317トン（同20.7%減）と大幅に、デンマーク産は5万4767トン（同1.5%減）とわずかに、いずれも前年度を下回った。その結果、シェアは、スペインが

全体の29.4%、ブラジルが同15.2%、米国が同12.7%、メキシコが同10.8%、デンマークが同9.0%、カナダが同8.3%を占めた。

推定出回り量は、前年度をわずかに上回る

6年度の豚肉の推定出回り量は、物価の上昇による牛肉からの需要のシフトなどから、184万9413トン（前年度比0.4%増）と前年度をわずかに上回った。このうち輸入品は、95万7280トン（同2.1%増）と前年度を

わずかに上回った一方、国産品は89万2133トン（同1.3%減）と前年度をわずかに下回った。

年度末（7年3月）の推定期末在庫は、21万6539トン（同14.4%増）と前年度末をかなり大きく上回った。このうち、約9割を占める輸入品は19万2115トン（同15.6%増）とかなり大きく、国産品は2万4424トン（同5.7%増）とやや、いずれも前年度末を上回った。

表2 豚肉需給表

年度	生産量		輸入量					
			うち冷蔵品			うち冷凍品		
	トン	前年度比(増減率)	トン	前年度比(増減率)	トン	前年度比(増減率)	トン	前年度比(増減率)
R 2	916,787	1.5%	883,985	▲7.3%	418,240	0.6%	465,703	▲13.3%
3	922,691	0.6%	928,994	5.1%	426,836	2.1%	502,142	7.8%
4	901,101	▲2.3%	965,146	3.9%	391,789	▲8.2%	573,311	14.2%
5	908,775	0.9%	914,512	▲5.2%	392,739	0.2%	521,645	▲9.0%
6	894,786	▲1.5%	983,276	7.5%	376,866	▲4.0%	606,284	16.2%

年度	推定期末在庫						推定出回り量					
			うち輸入品		うち国産品				うち輸入品		うち国産品	
	トン	前年度比(増減率)	トン	前年度比(増減率)	トン	前年度比(増減率)	トン	前年度比(増減率)	トン	前年度比(増減率)	トン	前年度比(増減率)
R 2	181,984	▲13.4%	157,880	▲14.7%	24,104	▲3.8%	1,827,467	0.9%	911,180	▲0.2%	916,287	2.0%
3	180,095	▲1.0%	156,094	▲1.1%	24,001	▲0.4%	1,852,032	1.3%	930,780	2.2%	921,252	0.5%
4	209,804	16.5%	189,572	21.4%	20,232	▲15.7%	1,835,097	▲0.9%	931,668	0.1%	903,429	▲1.9%
5	189,236	▲9.8%	166,119	▲12.4%	23,117	14.3%	1,842,282	0.4%	937,965	0.7%	904,317	0.1%
6	216,539	14.4%	192,115	15.6%	24,424	5.7%	1,849,413	0.4%	957,280	2.1%	892,133	▲1.3%

資料：農林水産省「食肉流通統計」、財務省「貿易統計」、在庫量は農畜産業振興機構調べ
 注1：部分肉ベース。
 注2：輸入量のうち、冷蔵品および冷凍品はくず肉を含まない。

【鶏肉】 生産量は、前年度をわずかに上回る

6年度の鶏肉生産量は、好調な鶏肉消費を背景に、171万1025トン（前年度比0.4%増）と、前年度をわずかに上回った（表3）。

輸入量は、前年度をわずかに上回る

6年度の鶏肉輸入量は、国内の節約志向を背景とした鶏肉需要により、61万8754トン（前年度比1.7%増）と前年度をわずかに上回った。

輸入先別に見ると、ブラジル産は42万

9383トン（同1.6%増）とわずかに、タイ産は18万151トン（同4.1%増）とやや、いずれも前年度を上回った。その結果、シェアは、ブラジルが全体の69.4%、タイが同29.1%を占めた。

推定出回り量は、前年度をわずかに上回る

6年度の鶏肉の推定出回り量は、堅調な需要から生産量と輸入量が増加したことにより、233万8744トン（前年度比1.7%増）と前年度をわずかに上回った。このうち、

主に加工用、外食・中食用に大部分が仕向けられる輸入品は61万6622トン（同1.7%増）、家計消費用に仕向けられる国産品は172万2122トン（同1.7%増）と、ともに前年度をわずかに上回った。

年度末（7年3月）の推定期末在庫は、15万7013トン（同5.4%減）と前年度末をやや下回った。このうち、約8割を占める輸入品は13万1242トン（同1.7%増）と前年度末をわずかに上回った一方、国産品は2万5771トン（同30.1%減）と前年度末を大幅に下回った。

表3 鶏肉需給表

年度	生産量		輸入量	
	トン	前年度比 (増減率)	トン	前年度比 (増減率)
R2	1,649,744	0.2%	552,832	▲3.4%
3	1,689,107	2.4%	594,223	7.5%
4	1,678,744	▲0.6%	565,043	▲4.9%
5	1,703,591	1.5%	608,569	7.7%
6	1,711,025	0.4%	618,754	1.7%

年度	推定期末在庫						推定出回り量					
	うち輸入品		うち国産品		うち輸入品		うち国産品		うち輸入品		うち国産品	
	トン	前年度比 (増減率)	トン	前年度比 (増減率)	トン	前年度比 (増減率)	トン	前年度比 (増減率)	トン	前年度比 (増減率)	トン	前年度比 (増減率)
R2	163,802	▲3.9%	135,022	▲3.1%	28,780	▲7.5%	2,209,221	0.4%	557,136	▲0.1%	1,652,085	0.5%
3	157,653	▲3.8%	125,160	▲7.3%	32,493	12.9%	2,289,479	3.6%	604,085	8.4%	1,685,394	2.0%
4	153,902	▲2.4%	126,853	1.4%	27,049	▲16.8%	2,247,538	▲1.8%	563,350	▲6.7%	1,684,188	▲0.1%
5	165,978	7.8%	129,110	1.8%	36,868	36.3%	2,300,084	2.3%	606,312	7.6%	1,693,772	0.6%
6	157,013	▲5.4%	131,242	1.7%	25,771	▲30.1%	2,338,744	1.7%	616,622	1.7%	1,722,122	1.7%

資料：財務省「貿易統計」、農畜産業振興機構調べ

注1：生産量は骨付き肉ベース。

注2：成鶏肉含む。

注3：輸入量には鶏肉以外の家きん肉を含まない。

(畜産振興部 小森 香穂)